

令和7年度 美作国創生公募提案事業

最終報告書

美作地域の若者多文化共創プロジェクト『みまクロ CAMP』

NPO 法人 市民活動センターみんなでしようえい

2026年4月10日

① 団体名

NPO 法人 市民活動センターみんなでしようえい

② 事業名

美作地域の若者多文化共創プロジェクト『みまクロ CAMP』（みまさかクロスカルチャー CAMP の略）

③ 事業の目的

美作地域における「交流・定住・関係人口」の創出と若者が活躍できる地域の創造を目的とする。美作地域で学び、働き、暮らす多様な若者たちが主体となり、地域の魅力発見と多文化共生の未来を築くプロジェクトとして、在住外国人と地域住民の交流促進、若者の地域参画意識の向上、多言語による地域魅力の発信を通じて、多文化共生社会の実現と地域活性化を図る。

④ 事業の実施状況

ア) 実施状況

【体制づくり・準備状況】

- 2025年6月20日に勝央こころざしシェアスペースにて説明会を開催（参加者14名、スタッフ8名、見学3名、合計17名）
- プロジェクトスタッフ（地域の若者）15名以上の参加目標に対し、10名が参加登録
- 事業スタッフ7名体制で運営
- 国際交流アドバイザー（在住外国人）との連携体制を構築
- LINEオープンチャットによる参加者間のコミュニケーション体制を整備

【実施済み事業】

1. イベント運営チーム活動

◆ 勝央町天神祭参加イベント（2025年7月25日実施／勝央町）

- 事前ミーティング2回実施（7月6日：4名、7月17日：4名）
- 「外国人の方と一緒に 勝央町 天神祭を楽しもう」企画を実施
- プロジェクトスタッフ3名、国際交流アドバイザー1名、事業スタッフ6名、一般参加者10名、合計20名（他に現地交流者あり）
- 浴衣着付け、天神祭の文化・歴史レクチャー、祭り会場散策、神輿担ぎ体験を実施
- 地域住民との自然な交流が生まれ、文化を越えた人と人のつながりを創出

◆ ショウオウバンパクマルシェ参加イベント（2025年8月23日実施／勝央町）

- 事前ミーティング2回実施（8月7日、8月11日：5名）
- 「世界の衣装をさがせ！フォトチャレンジ」企画を実施
- プロジェクトスタッフ3名、国際交流アドバイザー1名、事業スタッフ6名、一般参加者16名、合計26名（他に現地交流者30組・52名）
- JICAによる衣装協力のもと10ヶ国以上の伝統衣装を活用した国際交流プログラムを展開

- 来場者との写真撮影を通じ、着用衣装の国の挨拶と簡易の文化紹介で交流促進（マルシェ 来客者数 2,500 人）

◆ みんなでしょうえいオープンミーティング（2025年10月17日実施／美作市）

- 運営団体の定例イベントに参加し、アイデア会議を実施
- プロジェクトスタッフ3名、国際交流アドバイザー1名、事業スタッフ5名、一般参加者3名、合計16名

◆ ぶらり湯郷街あるき（2025年11月16日実施／美作市湯郷温泉）

- 多文化共生イベント「ぶらり湯郷街あるき ～外国人と若者が発見する湯郷の新たな魅力～」を実施
- プロジェクトスタッフ1名、事業スタッフ5名、見学4名、一般参加者7名、合計17名
- 外国人参加者7名（アメリカ、フィンランド、ベトナム等）と日本人若者が協働で湯郷温泉街を探索
- 現代玩具博物館、あの日のおもちゃ箱昭和館、足湯等を散策
- 参加者アンケートでは7名中6名が「とてもよかった」（86%）、1名が「まあよかった」と回答
- 外国人参加者から「街並みが美しい」「足湯が素晴らしい」「昭和館で日本文化を体感できた」等の感想
- 課題として「歩行者に優しい道路整備」「英語の案内板の充実」「多言語パンフレット」「ベジタリアン対応」等の提案あり

2. 多文化共生フォーラム

◆ 第1回 多文化共生フォーラム「つながる ひろがる 地域の輪」（2025年11月1日実施／美作市）

- 会場：KAILUA HOUSE CAFE HANGOUT（美作市）
- 合計8名参加。ゲスト講師：岩城あすか氏（箕面市国際交流協会 事務局次長）
- 日本における外国人住民の現状と課題（在留資格の構造的問題、外国ルーツの子どもの急増等）

- 箕面市国際交流協会の先進的取り組み（コミュニティカフェ「コムカフェ」の運営、外国人当事者によるワンコイン語学教室等）
- 多文化共生で大切なこと（対等ではない関係性への認識、対話と試行錯誤の継続、「苦労」の共有）

◆ 第2回 多文化共生フォーラム「世界の扉の開き方」（2026年1月10日実施／奈義町）

- 会場：Asian Hope Lab.（奈義町広岡）。合計33名参加（10代～60代）
- 講師：辰野まどか氏（一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト GiFT 代表理事）
- グローバル・シチズンシップの概念と4つのステップのワークショップ
- 「マイ・ギフト・カーブ」（人生グラフ）の作成と共有による深い対話（ダイアログ）の実践
- 参加者の声：「意外と良い人生を送ってきたかもしれないと肯定的な気持ちになれた」「他者に話を聞いてもらうことで自信がついた」

3. 交流会&アイデア会議

◆ 第1回（2025年10月22日／勝央町）

- 会場：あかりあん（勝央町）。合計13名（外国人2名含む）
- 地域産品の新商品試食会：勝間田高校の肉味噌担々麺（商品化進行中）、岡山甘栗蕎麦

◆ 第2回（2025年11月16日／美作市）

- ぶらり湯郷街あるきの振り返り・アイデア会議（上記イベント内に含む）

◆ 第3回（2025年12月18日／奈義町）

- 会場：蔵（奈義町の古民家飲食店）。合計11名（外国人2名含む）
- 奈義町の里芋を使ったお好み焼き、ドリア、甘栗スイーツの試食。若者メンバー中心のアイデア議論

4. SNS 発信チーム活動

Instagram・Facebook 公式アカウント（@mimakuro.cc）を開設・運営。3言語（日本語・英語・ベトナム語）で発信。

- Instagram 投稿：32本、Facebook 投稿：32本、ストーリーズ：12本 → 合計76本
- 発信内容：イベントレポート、地域紹介シリーズ、フォーラム案内・レポート等

5. SNS レクチャー

プロの WEB クリエイターによる Instagram 実践的運用スキル講座を計 4 回実施（合同会社 T E G O U / 津山市）。

回	実施日	参加人数
第 1 回	2025 年 10 月 30 日	4 名
第 2 回	2025 年 11 月 6 日	4 名
第 3 回	2025 年 12 月 5 日	7 名
第 4 回	2025 年 12 月 12 日	5 名
合計	4 回	延べ 20 名

6. 多文化・国際交流会 in 美作大学（2026 年 2 月 14 日実施 / 津山市）

- 会場：美作大学 本館 2 階 多目的ホール（岡山県津山市北園町 50）
- 参加者：美作大学学生 4 名、教授 2 名、学長、国際交流員 3 名、ALT2 名、みんなでしょうえい 3 名、地域住民 2 名、NPO おかやま 2 名、合計 19 名
- プログラム：みまクロ CAMP 活動紹介、国際交流員の活動紹介（フランス・インド）、美作大学生フィリピン・セブ島ボランティア留学報告
- 意見交換・感想：バベルの塔ゲーム、国当てジェスチャーゲーム等のレクリエーション
- 参加者から「地域に外国人がこんなにたくさん住んでいることを知らなかった」「もっと交流の機会を増やしたい」という声
- 山陽新聞（2026 年 2 月 17 日付）掲載：「遊び通じ互いを理解」の見出しで報道

7. 料理教室（2026 年 3 月 14 日実施 / 奈義町）

- 参加者：16 名
- 内容：イギリスのチキンティッカカレー、メキシコのフレッシュサラダと米のスイーツを調理
- 地元食材と国際的な家庭料理の組み合わせを楽しむ実践的な料理体験
- 外国人住民が「先生」となるスタイルが相互理解と関係づくりに効果的
- イベント出店や店舗での販売など、地産食材×世界の料理の可能性について活発な議論

8. みまクロミニフェスタ × Asian Hope Lab. 最終イベント（2026年3月21日実施／奈義町）

本事業の集大成となる最重要イベント。当初の計画どおり実施し、成功を収めた。

- 会場：Asian Hope Lab.（奈義町広岡 1213） 入場料：無料
- 参加者：日本を除く9カ国籍、約120名（国際交流員・ALTら外国人約20名を含む）

時間	内容
13:00～13:30	オープニング 挨拶・バラライカ演奏
13:40～14:00	フランスの歌 ステージ
14:10～14:30	二胡演奏 ステージ
14:40～14:50	みまクロ CAMP 活動報告
15:00～16:00	ホーリー祭（インドの春祭り体験）
16:00	閉会挨拶
18:00～20:00	シネマ「カンタ・ティモール」上映会

- 出店ブース：クラフトソーダ（ドライフルーツ余剰シロップ活用）、世界のコーヒー・物販、ビリヤニ、ドライフルーツ、ヒジャブ体験、農家ブース
- インドの春祭り「ホーリー」では、カラフルな粉を全員で体験し大いに盛り上がった
- 参加者の声：「外国人の友人もでき、交流の機会があってよかった」
- **山陽新聞（2026年3月24日付）掲載**：「町民ら外国人と交流」の見出しで報道

イ) 完了状況

当初計画どおり、全事業を完了した。3月14日の料理教室（16名）および3月21日のみまクロミニフェスタ（約120名）を最後に、2025年6月の説明会から始まった約10ヶ月間の全事業を予定通り完了した。延べ参加者数は381名（SNSレクチャー含め401名）となり、目標の300名を大幅に超えて達成した。

ウ) 事業実施する上での課題

1. プロジェクトスタッフの確保：目標15名以上に対し10名の登録にとどまった。若者の多忙なスケジュール（学業・アルバイト等）と地理的要因の両立が課題
2. 外国人参加者の継続的な参加確保：スケジュール調整や言語サポートの充実が引き続き必要。技能実習生等は勤務スケジュールの制約が大きい
3. SNS発信の投稿数：目標100投稿に対し76投稿。レクチャーは目標2回に対し4回実施できたが、メンバー自身による投稿体制の確立に時間を要した
4. 各市町村での事業展開：会場確保や地域関係者との調整に時間を要した。特に新規の市町村での開催には事前の関係構築が重要
5. 多文化共生イベントにおける言語サポート：美作大学イベントでフィリピン人参加者が日本語を理解できず他参加者が通訳。多言語資料の準備や通訳者確保が必要

工) 収支の状況

勘定科目	予算額	実績（確定）	差額
会場費	36,600 円	107,500 円	△70,900 円
保険料	70,000 円	5,000 円	65,000 円
消耗品費	76,000 円	31,617 円	44,383 円
人件費	220,000 円	170,000 円	50,000 円
講師料	345,000 円	238,380 円	106,620 円
備品購入費	40,000 円	39,924 円	76 円
広報費	405,000 円	464,000 円	△59,000 円
手数料	—	14,177 円	△14,177 円
その他	—	7,660 円	△7,660 円
合計	1,192,600 円	1,078,258 円	114,342 円

予算執行は適正に管理されており、合計では予算額 1,192,600 円に対し実績 1,078,258 円で予算内に収まった。会場費は想定を超えたが、保険料・人件費・講師料などを効率的に運用し全体として予算内での執行を達成した。

⑤ 目標達成状況

【全体目標】

目標項目	目標値	中間時点 (10月)	実績(3月)	状況
プロジェクトスタッフ 参加数	15名以上	9名	11名	目標未達
全事業の延べ参加者数	300名以上	125名	381名 (SNS 含め 401名)	目標達成
実施会場の市町村数	4市町村以上	3市町村	4市町村	達成済

延べ参加者数 381名は、名簿ベース（193名+マルシェ現地交流者 52名+料理教室 16名+みまクロミニフェスタ 120名）の合計。SNS レクチャー延べ 20名を含めると 401名。

【活動別 実績】

イベント企画

項目	目標	実績
実施回数	4回	5回（天神祭・マルシェ・湯郷・料理教室・みまクロミニフェスタ）
参加者	延べ 60名以上	215名（20+26+17+16+120+現地交流 52名）
外部人材	4名	4名以上

多文化共生フォーラム

項目	目標	実績
実施回数	3回	3回（11/1・1/10・2/14 美作大学）
参加者数	各回 20名以上	第1回：8名、第2回：33名、第3回（美作大学）：19名

項目	目標	実績
スピーカー	2名×3回	第1回：岩城あすか氏、第2回：辰野まどか氏、第3回：国際交流員等

地域活性化アイデア会議

項目	目標	実績
実施回数	4回	5回（10/17・10/22・11/16・12/18・1/10）
アイデア数	10件以上	達成（別紙参照）
ファシリテーション	2回	2回（フォーラムでのワークショップ形式）

多言語 SNS を活用した情報発信

項目	目標	実績
投稿回数	100投稿	76投稿（Instagram32本、Facebook32本、ストーリーズ12本）
情報収集インタビュー	3回以上	8回（イベント・アイデア会議にて実施）
編集会議	4回	4回（レクチャー後に実施）
レクチャー	2回	4回（10/30・11/6・12/5・12/12）延べ20名参加

【参加者実績一覧】

日付	事業名	場所	P.スタッフ / アドバイザー	スタッフ /一般他	合計
6/20	説明会	勝央町	6	11	17
7/6	事前 MTG	勝央町	1	3	4
7/17	事前 MTG	勝央町	2	2	4
7/25	天神祭	勝央町	4	16	20
8/11	事前 MTG	勝央町	3	2	5
8/23	マルシェ	勝央町	4	22	26 (+52)
10/17	オープン MTG	美作市	4	13	16 (※一般含む)
10/22	交流会①	勝央町	4	9	13
11/1	フォーラム①	美作市	1	7	8
11/16	湯郷街あるき	美作市	1	16	17
12/18	交流会③	奈義町	2	9	11
1/10	フォーラム②	奈義町	1	32	33
2/14	美作大学交流会	津山市	1	18	19
3/14	料理教室	奈義町	2	14	16
3/21	みまクロミニフェスタ	奈義町	3	約 120	約 120
	合計				329(+52)

マルシェ現地交流者（52名）を含む延べ参加者数：381名（SNSレクチャー延べ20名を含めると401名）

【実施市町村】

市町村	実施事業
勝央町	説明会、天神祭、マルシェ、交流会、事前 MTG
美作市	オープン MTG、フォーラム①、湯郷街あるき
奈義町	交流会②③、フォーラム②、料理教室（3/14）、みまクロミニフェスタ（3/21）
津山市	SNS レクチャー（4 回）、多文化・国際交流会 in 美作大学（2/14）

1. 多文化共生の推進

- 天神祭では日本の伝統文化（浴衣着付け・神輿担ぎ）を外国人参加者が体験し、地域住民との自然な交流が実現
- マルシェイベントでは 10 ヶ国以上の文化を紹介し、来場者 2,500 人規模の会場で 52 名との直接交流を創出
- 湯郷街あるきでは多国籍メンバーが協働で温泉街を探索し、地域の魅力と課題を発見
- 料理教室（3/14）では外国人住民が「先生」となり、食を通じた深い文化交流が実現した
- みまクロミニフェスタ（3/21）では 9 カ国籍・約 120 名が集まり、ホーリー祭を全員で体験。山陽新聞（3/24 付）で大きく報道された
- 美作大学での多文化・国際交流会（2/14）では大学・NPO・国際交流員・地域住民をつなぐネットワークを構築。山陽新聞（2/17 付）に掲載

2. 若者の地域参画促進

- プロジェクトスタッフ 11 名が企画・運営に主体的に参加し、プレゼンテーション能力や地域コーディネート能力を向上
- 交流会・アイデア会議を通じて、若者の視点から地域の課題解決に向けた具体的な提案が生まれた（地域産品の商品化、多言語対応の充実等）

3. 地域魅力の発信力向上

- SNS を通じた日本語・英語・ベトナム語の多言語発信により、地域の魅力が国内外に発信（Instagram・Facebook 合計 76 投稿）
- SNS レクチャー4 回実施で、参加者の SNS 発信スキルが実践的に向上
- みまクロミニフェスタの 1 分動画を SNS で発信し、地域内外に活動の集大成を広く伝えた

4. 関係人口の創出

- フォーラム参加者は教育関係者、行政・国際交流関係者、福祉団体、農業関係者等多岐にわたり、地域横断的なネットワークが形成された
- 勝間田高校の肉味噌担々麺の商品化進行中、ドライフルーツ余剰シロップのクラフトソーダなど、活動から生まれた地域産品開発の成果が確認された
- みまクロミニフェスタには約 120 名が集まり、「外国人の友人もでき交流の機会があったよかった」という声に代表されるように、「顔の見える関係」が各地で生まれた

県民局と連携した効果及び課題

1. 県民局との連携による効果

- **事業の信頼性・公共性の向上**：美作県民局の補助事業として位置づけられたことで、行政機関・教育機関・地域団体への協力依頼において高い信頼性を得ることができた。美作大学、JICA、国際交流員（CIR）・ALT 等との連携が実現した背景には、県民局事業としての公的な裏付けが大きく寄与している。
- **広域連携の実現**：県民局の管轄する美作地域全体を視野に入れた事業設計が可能となり、勝央町・美作市・奈義町・津山市の 4 市町村にわたる広域的な事業展開を実現した。単一自治体では困難な市町村を横断した多文化共生ネットワークの構築に、県民局との連携が不可欠であった。
- **外部専門家の招聘と知見の導入**：補助金を活用し、箕面市国際交流協会（岩城あすか氏）や GiFT（辰野まどか氏）等の第一線の専門家を講師として招聘できた。これにより、先進地の実践知を美作地域に直接届けることができ、参加者の多文化共生に対する理解が大きく深まった。

- **メディア報道と社会的認知の拡大**：県民局補助事業としての公的位置づけが報道価値を高め、山陽新聞に2回（2026年2月17日付・3月24日付）掲載された。地域における多文化共生の取り組みが広く周知され、事業の社会的認知と波及効果の向上につながった。

2. 県民局との連携における課題

- **単年度事業の限界と継続性の確保**：本事業は単年度の公募提案事業であるため、10ヶ月間で築いた多文化共生ネットワークや若者の参画意欲を次年度以降にどう継続・発展させるかが最大の課題である。関係人口や地域横断的なつながりは、継続的な活動によってこそ定着するため、複数年度にわたる支援の枠組みが望まれる。
- **行政との情報共有・連携体制の強化**：県民局や各市町村の多文化共生担当部署との情報共有を、より密に行う体制づくりが必要である。今年度は事業実施団体側の主導で進めたが、行政側が把握している外国人住民の状況や地域課題のデータを共有いただくことで、よりの確な事業設計が可能になると考える。
- **報告・事務手続きの負担**：補助事業に伴う報告書作成・収支管理・実績証拠の整理等の事務負担は、少人数のNPO運営体制にとって大きな負荷となった。事業の質を維持しつつ事務効率を高めるため、報告様式の簡素化やデジタルツールの活用等について、県民局との協議を進めたい。
- **県民局管内の他事業・他団体との連携**：美作県民局管内には多文化共生や地域活性化に取り組む他の補助事業や団体が存在するが、今年度は十分な横の連携ができなかった。県民局がハブとなり、採択事業間の情報交換や合同イベントの機会を設けることで、事業間のシナジー効果が期待できる。

⑦ 事業全体の総括

美作地域の若者多文化共創プロジェクト『みまクロ CAMP』は、2025年6月の説明会開催から2026年3月の最終イベントまで、約10ヶ月間にわたる事業として実施した。

事業期間中に、イベント企画5回（天神祭・マルシェ・湯郷街あるき・料理教室・みまクロミニフェスタ）、多文化共生フォーラム3回、交流会&アイデア会議5回、SNSレクチャー4回を実施し、延べ381名（SNSレクチャー含め401名）の参加者が事業に関わった。目標の300名を大幅に超えて達成した。

3月14日の料理教室（16名）、3月21日のみまクロミニフェスタ（9カ国籍・約120名）という集大成を迎えた。山陽新聞にも2月17日と3月24日の2回掲載され、地域内外にみまクロ CAMPの活動が広く報道された。

SNS発信はInstagram・Facebook・ストーリーズ合計76本の投稿を行い、日本語・英語・ベトナム語の多言語で美作地域の魅力を発信した。予算については、総額1,192,600円に対し実績1,068,125円で適正に管理・執行された。

みまクロ CAMPは、多文化共生に向けた新たなスタートを切るための10ヶ月であった。教育・行政・福祉・産業にまたがる地域横断的なネットワーク、外国人住民の「顔の見える関係」、若者の地域参画の成功体験、多言語発信の基盤——これらの「種」を美作地域に残し、継続的な多文化共生の取り組みへの礎とする。

NPO 法人 市民活動センターみんなでしようえい
令和7年度 美作国創生公募提案事業 最終報告書